

神性宣言と五回目のメシア的奇跡①

□前回までのハイライトからのつながり

紀元 29 年の春から異邦人地域へ、4 回のリトリート（退避、休息のための旅行）

目的は弟子訓練：イエスをメシアであり「**神一人**」であると理解するように

1 回目のリトリートからの帰りには、イエスの湖上歩行の奇跡（マタ 14：22～33）

弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、**イエスを礼拝した**。



異邦人地域へのリトリート 4 回目 ピリポ・カイサリア

ペテロの信仰告白と**イエスの変貌**

あなたはキリスト、神の子、生けるお方です

ヘルモン山のふもと **変貌**は山の上で



四回目のメシア的奇跡による弟子訓練

使徒の権威を用いるための祈りと信仰

ヘルモン山のふもとにて



リトリート終了 カペナウムに帰還（北のガリラヤ地方、ガリラヤ湖の北側の町）

紀元 29 年秋 仮庵の祭りのために、エルサレム（南のユダヤ地方、神殿のある都）へ



神性宣言と五回目のメシア的奇跡

10 月の仮庵の祭りにて

生まれながらの盲人の癒やし

十字架の死まで、あと半年

□アウトライン

神性宣言（ヨハネ 8：21～59）

A) 神性宣言・・・・・・・・・・ **イエスを神として信じなければ罪の中で死ぬ**

B) 罪とサタンと死からの解放宣言

五回目のメシア的奇跡（ヨハネ 9：1～41）

C) 生まれながらの盲人の癒やし

D) 癒やされた人への指導者層による尋問と追放処分

E) 癒やされた人の霊的救い・・ **彼は「主よ、信じます」と言って、イエスを礼拝した**

神性宣言

A) 神性宣言 (ヨハネ 8：21～30)：紀元 29 年の仮庵の祭り、エルサレムの神殿にて

イエスは、人々に向けて、ご自身を神であると宣言。中心メッセージは 24 節
「わたしが『わたしはある』であることを信じなければ、あなたがたは、自分の罪
の中で死ぬことになる」『わたしはある』とは、出 3：14 で啓示された**神の名**。

1. イエスは 7 つのことを語った (ヨハネ 8：21～29)

- ① イエスは人々がついて来ることができないところに行く (21 節)
- ② 人々は自分の罪の中で死ぬ (21 節)
- ③ イエスと人々とでは、出て来たところが違う。イエスは天から、人々は地からであり、この世の者 (23 節)
- ④ **イエスを神が人となられたお方であると信じなければ、人々は自分の罪の中で死ぬ (24 節)**
- ⑤ イエスは、将来において、人々をさばく立場に立つ。神だからである (26 節)
- ⑥ 人々をさばく前に、イエスにはなすべき任務がある。その任務をイエスに与えて、イエスを遣わした方は、神である。イエスはその方から聞いたことを、そのまま語っている (26 節)
- ⑦ 人々はイエスを十字架につけるであろう。「人の子を上げる」とはイエスを十字架にかけること。「わたしを一人残されることはない」とは、イエスの復活と昇天。人々は、イエスの十字架の死と葬り、復活と昇天の後で、イエスを神であると知る (28～29 節)

2. これらのことを聞いた人々の反応 (ヨハネ 8：30)

30 節 イエスがこれらのことを話されると、**多くの者がイエスを信じた。**

- 聞いた人々の大半は、理解できなかった。しかし、一部の人たち、数としては「**多くの者**」の心の中に、光が差し込んで理解でき、イエスをメシアであると信じた。
- イエスが指導者層との衝突もあえて覚悟の上で仮庵の祭りに来たのは、イスラエルの民族的救いのためではなく、個人的な救いのためであった。
- 個人的な救いのためには、罪の問題が重要。次のテーマ、罪からの解放に、イエスの話が続く。

B) 罪とサタンと死からの解放宣言 (ヨハネ 8 : 31~59)

1. 罪からの解放 (ヨハネ 8 : 31~40)

31~32 節 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

- 信じた人たちに向かって。ただし、まわりに聴衆もいる。
- イエスのことばを「真理」、罪からの解放を「自由にする」と表現。イエスのことばを信じ受け入れるなら、人は罪の力から解放される。
- 信じたばかりの人たちは意味がわからず、次にイエスに質問

33 節 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、今までだれの奴隷になったこともありません。どうして、『あなたがたは自由になる』と言われるのですか。」

- アブラハムの子孫・・・アブラハムは、神が全人類の中から選んだ一人の人、イスラエル民族は、そのアブラハムの子孫であり、神が育ててくださった特別な民である。この恵みのゆえに本来はへりくだるべきところ、自分たちは罪汚れだらけの異邦人とは違うという誤った選民意識を持って、誇ってしまった。そして、イスラエル人に生まれたというだけで、神の国に入れるという誤った教えが、当時の人々の中には浸透していた。
- だれの奴隷になったこともありません・・・信じたばかりの人たちにも、そのような教えがしみついている。自分たちが個人的に罪の問題をかかえているとは思いが向かわず、奴隷か自由民か、の問題と勘違いしてしまった。

34~36 節 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。奴隷はいつまでも家にいるわけではありませんが、息子はいつまでもいます。ですから、子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。

- イエスの応答は、信じた人だけでなく、まわりにいる聴衆にも向かって
- 罪を行っている者はみな、罪の奴隷です・・・「真理はあなたがたを自由にする」とは、罪の問題に関係する。自由にするというのは、罪の奴隷状態から解放するということである。

37 節 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかし、あなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちに入っていないからです。

38～39 節 a わたしは父のもとで見たことを話しています。あなたがたは、あなたがたの父から聞いたことを行っています。」

彼らはイエスに答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」

39 節 b～40 節 イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、**アブラハムのわざ**を行うはずですが、ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに語った者であるわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことをしませんでした。

- アブラハムのわざ・・・神のことばを聞いて、それを信じる（創 15：6）
- ここで、人々が自分たちをアブラハムの子どもと呼び、「私たちの父はアブラハムです」と言ったことを受けて、イエスは、次のテーマに移る。罪人たちの父はサタンであり、イエスは人をサタンから解放する、というテーマである。

2. サタンからの解放（ヨハネ 8：41～50）

① サタンを人々の父と呼ぶ

41 節 「あなたがたは、**あなたがたの父**がすることを言っているのです。」すると、彼らは言った。「私たちは淫らな行いによって生まれた者ではありません。私たちに**は**ひとりの父、神がいます。」

- イスラエルの民は、民族として「神の子」（出 4：22～23）。その意味では、ここで聴衆が、神を「私たちの父」と呼ぶのは正しい。
- しかし、イエスが教えようとしているのは、民族としてではなく、一人ひとりが、信仰により霊的に救われてサタンの支配から脱し、神を父と呼ぶ関係になっているか、である。そのことをイエスは次に指摘する。

42～44 節 イエスは言われた。「神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずですが、わたしは神のもとから来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わされたのです。あなたがたは、なぜわたしの話が分からないのですか。それは、わたしのことばに聞き従うことができないからです。あなたがたは、**悪魔である父**から出た

者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。

- ② イエスが真理を語っていることの証しは、イエスがモーセの律法を完全に守っていることである。それを認めず、イエスを信じないのは、その人が神から出た者ではないからである（45～47 節）
- ③ 聴衆の中からまた、イエスを悪霊憑きと非難する声が飛ぶ。それに対するイエスの応答（48～50 節）

3. 死からの解放（ヨハネ 8：51～59）

- ① 死からの解放宣言（51 節）

51 節 まことに、まことに、あなたがたに言います。だれでもわたしのことばを守るなら、その人はいつまでも決して死を見ることがありません。

- ② 聴衆の反応「アブラハムも死んだのに」（52～53 節）

52～53 節 ユダヤ人たちはイエスに言った。「あなたが悪霊につかれていることが、今分かった。アブラハムは死に、預言者たちも死んだ。それなのにあなたは、『だれでもわたしのことばを守るなら、その人はいつまでも決して死を味わうことがない』と言う。あなたは、私たちの父アブラハムよりも偉大なのか。アブラハムは死んだ。預言者たちも死んだ。あなたは、自分を何者だと言うのか。」

- ③ 復活の宣言（54～55 節）

54 節 a イエスは答えられた。「わたしがもし自分自身に栄光を帰すなら、わたしの栄光は空しい。わたしに栄光を与える方は、わたしの父です。

➤ わたしに栄光を与える・・・イエスを復活させる

54b～55 節 この方を、あなたがたは「私たちの神である」と言っています。あなたがたはこの方を知らないが、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うなら、わたしもあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこの方を知っていて、そのみことばを守っています。

④ アブラハムの復活信仰、そしてそのとおりになるという預言（56 節）

56 節 あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを見て、喜んだのです。

- わたしの日・・・メシアが信者を栄光の体に復活させる日
- わたしの日を見るようになることを大いに喜んでいました・・・アブラハムが死者からの復活を信じていたことを指す（ヘブル 11：17～19）
- それを見て喜んだ・・・アブラハムが信じていたとおりになるという預言。アブラハムたち旧約の聖徒たちが復活するのは、大患難期が終わり、メシアの王国が始まるまでの 75 日間の間で（ダニ 12：2～3、11～12）。

⑤ 聴衆の反応に対して、あらためて神性宣言（57～58 節）

57 節 そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ 50 歳になっていないのに、アブラハムを見たのか。」

58 節 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』なのです。」

⑥ 聴衆はイエスの神性宣言を明確に理解し、イエスを殺そうとした（59 節）

59 節 すると彼らは、イエスに投げつけようと石を取った。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

まとめ：ヨハネ 8 章 21 節から 59 節におけるイエスの宣教は、神性宣言で始まり、神性宣言で終わった。イエスを、神が人となられたお方であると信じることが、罪とサタンと死から解放される唯一の道である。

8：24 わたしが『わたしはある』であることを信じなければ、あなたがたは、自分の罪の中で死ぬことになる

8：58 まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』なのです。